



國學院大學
栃木中学高等学校
〒328-8588
栃木市平井町608
☎(0282)25511
校報編集委員会

〈3月の行事予定〉

- 1日 第2回新入生ガイダンス(中)
新入生学力試験(中)
- 2日 第58回卒業式(高)
- 3日 美化の日(中)
- 4日 2年修学旅行
(NSTAB~8日
Gコース~9日)(高)
- 4日~7日 1年期末試験(高)
- 5日~7日 1年期末試験(中)
- 9日 振替休日(NSTAB2年)
- 10日 振替休日(G2年)
- 10・11日 3年生振替休日(中3年)
- 13日 卒業式予行(中)
- 14日 第22回卒業式(中)
- 18日 成績判定会議(中・高)
奉仕活動(中)
- 19日 終業式(中・高)
身体計測(高)
- 21日 新入生ガイダンス(高)
父母会支部長会(高)
- 22日 新入生学力試験(高)
- 23日 職員研修 職員会議(中・高)
- 24日~28日 春期講習(中・高)
- 29日 新中3対象説明会(高)
新6年対象説明会(中)

令和元年度をふり返る

教頭 飯村 友季子



飯村教頭

激変する地球環境

この冬は記録的な暖冬というところで、雪不足に悩まされている所も多いと聞く。昨今の気象については想定外の事態を招くこともあり、いよいよ地球温暖化対策に本気で取り組まざるを得ないと実感するところだ。

昨年10月の台風19号もたらした各地の被害も甚大なものだった。本学園も栃木駅前前の学園教育センターや二杉寮が被害に遭ったが、一夜にして変わり果てた栃木市の様子には、呆然とし言葉が出なかった。どこから手を付ければと気が遠くなる思いだった方々がたくさんいただろうし、今もなお苦労されている方もいる

にちがいないと思う。被害に遭われた方々には心からお見舞い申し上げたい。そんな中、本校のラグビー部や野球部、インタークラブなどといった部活動の生徒をはじめ、たくさん生徒がボランティアとして学校の外に出かけ、住宅の泥の掻き出しや家財を運び出すことを中心に泥だらけになって汗を流していた。少しでも力になるという姿勢は頼もしい限りで、その行動をとっても誇らしく思う。

その他にも今年度は外部の方から多くのお礼の電話やお手紙をいただいた。そのうちの一つは、視覚障害を持つ方が、駅の乗り換えに戸惑っていたところ、本校生が声をかけ、乗り換えのホームまで手を取り案内してくれ、感謝しているといったものだった。その光

景を思い浮かべたとき、「たくましく直ぐ明るくさわやかに」という校訓が同時に思い出された。困っている人たちに手を差し伸べることが自然にできるといふのは大切なことだと、つくづく思う。



春に先駆けて咲く

本校生の活躍

さて振り返ると、今年度も生徒たちの様々な活躍が思い出される。インタールハイや花園ラグビー大会、春高バレーなど全国大会には多くの部活動が出場したが、それ以外の部も、目標に一歩でも近づこうと切磋琢磨する姿が見られた。文化祭は文化部の生徒たちにとっては一年間の成果

を見せる晴れ舞台だが、今年もミュージカル部や吹奏楽部の公演、書道パフォーマンスは大勢の方が見に来てくれた。その他の部も作品の展示や研究発表など、一年間の集大成を見せてくれた。

夏休みに実施された小・中学生対象の一日体験学習会「カム・オン・イン・国学院」でも部活動やボランティアの生徒たちが活躍してくれた。部活動やコースを生徒たちが自分たちで紹介したり、駐車場係や案内係、講座の補助係としてきびきびと元気に小学生や中学生に対応してくれた。参加者のアンケートを集計すると「とても親切に対応してくれた」、「生徒たちがとても楽しそうだった」、「学校の雰囲気落ち着いて良かった」という感想が多かった。は、とても嬉しいことだった。

このように今年度は日々の学習、部活動、学校行事に全力投球し、文武両道を実践している生徒が数多く通う「国学院栃木」を、あらためて見直した年となった。

持続可能な開発目標

そして12月には初めて「カンボジア・タイ国際研修」を実施。2月7日にその研修報告会が開かれた。SDGs(持続可能な開発目標)

をテーマとした研修だったが、アンコール遺跡を修復するボランティア体験や、カンボジアの農村、女性たちの自立を支援する「サラスース」という工房や貧困層の子供たちが通う寺子屋での交流を、生徒たちが分りやすく説明し、自分の考えをきちんと発表していた。印象的だったのは「貧しい暮らしでも村の人たちは皆笑顔だったので、人の幸せは貧困とは関係がないのではないかと思いました」という言葉だった。限られた時間での発表だったが、それだけが語る言葉の裏側には、実際にその土地を訪れ自分たちの目で見て耳で聞いて感じたこと、学んだことがその何十倍、何百倍もあったにちがいないと思える、素晴らしい発表だった。この報告会を通して、いつか「他のために」行動でき、さらにSDGsにも貢献できるような、受験に必要な学習だけではなく、様々なことに興味関心を持ち、調べてみたり、実際に体験することからその若い感性で多くのことを感じてほしいと感じた。それが生徒一人ひとりの可能性をさらに広げることにも繋がるはずだと考えている。

人びとの未来のために

全校朝礼

校長講話(要旨) 青木一男高等学校校長



PowerPointを使った講話

2月3日(月)、四十周年記念館にて全校朝礼が行われた。今回は3年生が受験期間に入り、1・2年生のみの集会であった。

今回の校長講話では、2015年に国連で採択された「SDGs」持続可能な開発目標」やカンボジア研修で実感したことなどを、パワーポイントを用いて、生徒たちに伝えた。

させられました。

アンコール遺跡に行く、イル・ノルさんという、修復作業のプロジェクトを運営している団体の代表の方と出会いました。彼は、ポル・ポト派の弾圧を逃れて日本に亡命したものの、今は祖国のために修復の指導や、学校運営の手伝いをしているということでした。さらに、かつてオーストラリアで勤務した後に、現在JTBTタイ・バンコクの支店で副支店長として働く館邦弘さんから、『働き方・生き方』についての話を聴きました。

そうした人たちに共通する『他のために』皆のために・人を幸せにするために・という思いは、強く私の印象に残っています。『今こそしっかりと学び、自分大切に、周囲の人も大切にすること』、この心を一人ひとりが育むことで最終的には大きな力となり、世界をより良い方向に導いていくのだと思います。君たちに今できることは、さまざまな人びとに触れて学

第1学年 百人一首カルタ大会



カルタをめくって激しい攻防

1月15日(水)四十周年記念館において、第1学年百人一首カルタ大会が行われた。この行事は、日本の伝統文化を通して、古典に親しむことを目的として行われる今年で45回目を迎える本校の伝統行事でもある。生徒達は授業中や放課後な



部活動表彰者一同

び、目標に向けて、将来のための基礎となる力をつけることなのです」と述べた。その後、ラグビー・弓道・なぎなた・書道部の部活動表彰、百人一首大会(右記事)の、団体・個人の入賞者に対する表彰が行われ、会は終了した。

どの練習を通して身につけた技を発揮して競い合い、大会は股賑を極めた。

上位入賞者は以下の通り。

- 個人
- 1位 島村萌生(N1) 86枚
- 2位 高野真優(T3) 79枚
- 3位 山中颯大(A2) 77枚
- 4位 堀江裕二(B1) 71枚
- 5位 近藤三晴(B1) 69枚
- 6位 伊沢唯花(S1) 68枚

個人

- 団体
- 1位 S2組 平均37枚
- 2位 N1組 平均33枚
- 3位 B1組 平均22枚

第3学期 研究授業実施

令和元年度第3学期研究授業として、以下の4名が授業授業を行った。

授業終了後、参加教員たちは司会進行のもと、授業のあり方を模索し、討議を行った。なお、日時、授業担当者は次のとおり。

- 1月14日(火) 宮田 夏湖 (保健体育科)
- 1月31日(金) 宮崎 笙子 (地歴公民科)
- 1月31日(金) 丸山 貴行 (外国語科)
- 2月10日(月) 遠藤小百合 (理科)

カンボジア・タイ国際 研修報告会

2月7日(金)図書館大会議室にて、カンボジア・タイ国際研修の発表会が行われた。12月22日(日)より5日間行われた同研修で、20名の生徒は4つの班に分かれて、それぞれが現地を感じ取った問題点や感想などを発表した。会には、保護者の方々も参加、質疑応答

交通標語コンクール 最優秀賞受賞



受賞した清水さん

1月14日(火)清水夏海さん(A3年)が、栃木農業高校にて、栃木警察署長より「令和元年度栃木地区交通標語コンクール最優秀賞」の表彰を受けた。

受賞した彼女の標語は次のとおり。

「まだ行ける」

心の油断が 境界線

を交えた活発な発表がなされ、会は盛況の内に終了した。



研修の成果を披露

教務日誌抄(高校)

(2月)

- 1日(土) 2年大学入学 共通テスト早期対策 模擬試験 美化の日
- 3日(月) 全校朝礼 3年単位認定試験
- 8日(土) 単願合格者 ガイダンス
- 10日(月) 第2回卒業判定会議
- 18日(火) 21日(金) 2年期末試験
- 19日(水) 1年探究学習発表会
- 23日(日) 英語検定試験(2次)
- 28日(金) 予餞会
- 29日(土) 卒業式予行 賞状授与式 同窓会入会式

- 各コースは、次の記号で表示されます。
- 中高一貫コース N
- 特別選抜Sコース S
- 特別選抜コース T
- 選抜コース A
- グローバルコース G
- 文理コース B

書道部

「第42回グリの里新春書初め大会」が令和2年1月6日(月)に、下野市立石橋小学校体育館にて開催された。

県内外の小中高生ら約130名が参加し、20分の制限時間の中で日頃の練習の成果を披露した。参加者のなかから、計17名が特別賞に選出され、本校からは柿沼志帆さん(T1年)が栃木県知事賞、山下菜月さん(T2年)が下野市長賞を受賞した。

また、展覧会は1月19日(日)に、下野市役所にて開催された。

第71回栃木県

小中高書初展

特賞

山下菜月

大塚翔吾(N1年)

下条真生(T1年)

2月14日(金)～16日(日)

栃木県総合文化センターにて展示

第56回全国学生書道展

学年優秀賞(特別賞)

柿沼志帆

渡邊琴美(A1年)

3月9日(月)～15日(日)

東京都美術館にて展示

吹奏楽部・応援部

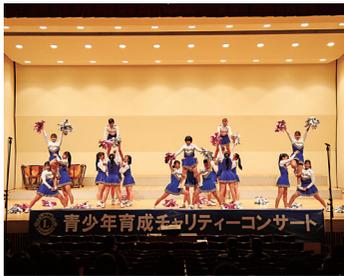
ライオンズクラブ
第16回青少年育成チャリティコンサート出演



本校吹奏楽部と応援部が令和2年1月26日(日)に都

文化部の活躍

賀文文化会館ハートホールにて行われた、栃木うづまライオンズクラブ主催「第16回青少年育成チャリティ

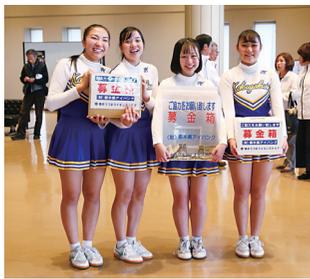


コンサート」に参加。吹奏楽部は、イングランド民謡のグリーンズリープスなど全3曲を演奏した。

今回のコンサートでは、高校生部員だけでなく中学生部員2名と共に本番を迎えたことや、生徒たちが演奏会には欠かせない様々な裏方の仕事を託されたことは、貴重な経験となった。

また、応援部は「ベストダムシング」の曲に合わせて、切れのよいダンスを披露、聴衆の喝采を浴びていた。

応援部は最後にアイバンクへの募金活動に協力。募金箱を手にして、会場から立ち去る人びとに協力を呼びかけていた。



化学部

2月12日(水)に化学部の発表会(SOC)が、本校化学室にて行われた。

現在化学部は1年生のみからなり、本校では化学の

授業を1年次では履修していないものの、自ら調べながらプレゼンテーションの資料を作成し、周期表とそれを作成したメンデレーエフについての探究と、周期表にあらわれる周期律に関連する炎色反応の実験を行い行った。

東京大学見学会



「赤門」を前に氣勢をあげる

2月8日(土)東京大学において、1年生の希望生徒および保護者21名を対象に、東京大学見学会を行った。

一行は学生ガイドの案内で本郷キャンパス内の赤門や安田講堂などの施設を見学した他、学生生活についての話を聞くことができた。

大学生から実際の学校生活や講義の内容、キャンパスライフなどの話を聞くことができ、高校とは異なる学問の世界についても魅力を知るとともに、大学進学への意欲を高めることができた。

新人戦 栃木県大会

個人戦準優勝 弓道部

1月19日(日)、県総合運動公園武道館弓道場。

女子個人の部において采澤朱莉選手(B2年)が、8射中8射を的中し、1位タイの記録で優勝決定戦に進出。惜しくも敗れたが準優勝となった。



3位 サッカー部
1月12日(日)～2月8日(土)、栃木市運動公園陸上競技場他。
初戦、黒磯高校に5対0で勝ち上がる。3回戦石橋高校には7対0と大勝利。準々決勝は宇都宮短期大学附属高校と激突。アグレッシブなゲームを展開し、3対0で勝利。準決勝は佐野日本大学高校と対戦。一進一退の攻防が繰り広げられ、0対0のまま延長戦へ。延長後半残り1分わずかな隙を突かれ失点。ベスト4に終わった。なお、優秀選手には次の3名が選出された。
古橋良祐(B2年)
福村聖那(B2年)
齋藤大空(A1年)

34度目の優勝 バレーボール部

1月25日(土)・2月1日(土)・2日(日)、県北体育館他。

宇都宮中央女子高校との決勝戦では、1セット目の終盤にミスから同点に追いつかれたが、冷静にスペースを見つけて得点し先取。2セット目は落ち着きを取り戻し、25対13で勝利。終わってみれば今大会1セットも落とさずに頂点に駆け上がり、2年ぶり34度目の栄冠を手にした。



春の全国大会出場

全国大会 日程

柔道 個人戦 3月21日(土) 団体戦 3月22日(日)

なぎなた ALSOKぐんまアリーナ(群馬県前橋市) 3月21日(土)〜22日(日)

ラグビー 伊丹スポーツセンター(兵庫県伊丹市) 3月24日(火)〜31日(火)

熊谷ラグビー場(埼玉県熊谷市)



男子団体8年ぶりの優勝 団体戦男女ともに全国へ

柔道 部

第42回全国高校柔道選手権大会栃木県予選会。1月18日(土)、19日(日)、栃木県武道館。

▽個人戦 女子3階級制覇 男子個人戦は、2階級で決勝に進出。73kg級野口康太選手(B1年)は延長戦にもつれ込む激戦となったが惜しくも敗れ準優勝。

女子個人戦は、無差別級ベスト4を独占し、馬場琴珠選手(B2年)が同校対決を制し2連覇を果たすなど、3階級で頂点に立った。全国への切符をつかんだ選手は次の通り。

57kg級 今田 菜摘(B1年) 63kg級 柴道うらら(B2年) 無差別級 馬場 琴珠(B2年) ▽団体戦 男女で全国へ 女子団体6連覇

男子団体戦は、前日の個人戦全5階級のタイトルを白鷗大学足利高校に独占され、背水の陣で団体戦決勝に挑んだ。体重無差別勝ち抜き方式で行われ、先鋒の川辺俊選手(B2年)が、個人81kg級決勝で敗れた相手に優勢勝ちを決めると、次鋒で登場した中島亮選手(B2年)は相手の次鋒、中堅を倒し、副将に引き分けた。

ラグビー 部

中堅の鈴木雅弘選手(B1年)も大将を相手に粘って引き分けに持ち込み2人残りで優勝を決め、個人戦完敗の雪辱を果たした。女子は、体重別総当たり方式で行われ、決勝戦は宇都宮南高校と対戦した。先鋒菅原優花選手(B2年)、次鋒柴道うらら選手(B2年)が一本勝ち。大将馬場琴珠選手(B2年)も冷静な試合運びで貫禄の勝利。3対0で完勝した。

なぎなた 部

栃木県高校なぎなた新人大会兼第15回全国選抜なぎなた大会県予選会、1月12日(日)、本校なぎなた場。齋藤選手、川島選手が個人試合の部で、今大会の上位6名の選手が団体戦で全国選抜大会へ出場する。

優勝 齋藤友里菜(A2年) 3位 川島 愛(G2年) 4位 押田 沙夕(B2年) 5位 枝 絢美(B1年) 6位 藤沼明日香(B1年) 第36回若潮杯争奪武道大会、12月26日(木)〜27日(金)、国際武道大学。出場した24名の中で黒川大輔選手(N1年)が第3位となった。また、全国選抜大会出場も決めている。



激しいボールの争奪戦(対東海大相模戦)

▽栃木県大会 25連覇 佐野日本大学高校との決勝戦では、SH細矢聖樹主将(B2年)が切れの良いパス回しでリズムを生み出し、ゲームを完全に支配。青柳龍之介選手(B2年)が2トライを挙げるなど、84対0で圧倒的な勝利を収めた。

関東大会

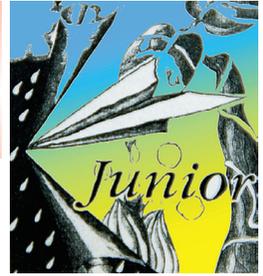
接戦を制し全国へ 第20回関東高等学校ラグビー1新人大会、2月15日(土)〜16日(日)、栃木県総合運動公園ラグビー1場。1回戦は、強豪東海大学相模高校(神奈川県)と対戦

前半はCTB田中大誠選手(B1年)のペナルティゴールで先制するも、1トライを許して3対7で折り返した。後半開始直後にトライを奪われ3対12と引き離されたが、重量FWがスクラムを押し相手ボールを奪い、LO佐藤大地選手(B2年)が中央にトライ、田中選手のゴールキックも決まり2点差。さらに終了間際に、再び田中選手が左45度付近からペナルティゴールを決めて13対12。見事に逆転勝利を飾った。

男子ハンドボール部

関東大会出場 第34回関東高校ハンドボール選抜大会、1月31日(金)〜2月2日(日)、小瀬スポーツアリーナ他。1回戦、法政大学第二高校(神奈川県)に19対32で敗退し、全国選抜大会の出場を逃した。

飛躍の時を迎えて



3学期も残すところ僅かとなり、3年生は卒業、下級生は進級を意識する時期に入った。卒業を迎える3年生たちには、オーストラリア語学研修という大きな行事が控えており、自分たちの成長を試す絶好の機会となる。下級生たちは先月の立志式や今月行われたイングリッシュスピーチコンテストなどの行事を経験して、順調に成長を遂げている。

2月7日(金)、卒業を間近に控えた3年生との交流を目的に、本校ラグビー場においてレクリエーション活動が行われた。この活動は生徒会の発案によるもので、生徒たちはこのレクリエーションを成功させるために様々なアイデアを出

レクリエーション開催

2月1日(土)、生徒会館大ホールにて全校朝礼が行われた。校長講話では、青木校長がカンボジア・タイ国際研修で感じたことを語った。世界には貧しい国も多く、そうした国では幼くして命を落としてしまう子どもや学校に通えない子どもたちがたくさんいる。その子どもたちの未来を創る活動のひとつとして「持続可能な開発目標」や「SALASUSU」などがある。今回の研修で出会



カンボジア・タイでの経験を語る



3年生からのエール

2月7日(金)、卒業を間近に控えた3年生との交流を目的に、本校ラグビー場においてレクリエーション活動が行われた。この活動は生徒会の発案によるもので、生徒たちはこのレクリエーションを成功させるために様々なアイデアを出



ホームルーム委員会の発表

えたそれらの団体で働く人たちは自分の利益のためではなく、周りの人を幸せにするために活動を行っている。そんな人間になるために、今、生徒たちができることは、「しっかりと学ぶこと」「まず自分を大切にすること」「そして周りの人を大切にするこ」だと述べた。その後、ホームルーム委員会より活動報告が行われ、朝礼は幕を閉じた。

オーストラリア語学研修

第3学年30名は、2月24日(月)〜3月9日(月)、オーストラリアのブリスベンで実施される語学研修に参加する。親元を離れて体験する異国での生活は、生徒たちの精神的な成長を促す格好の機会となる。

生徒は約2週間ホームステイをしながら、現地の学校で語学研修を行う。学校では英語の習熟度別の授業を中心に、アポリジンナル文化の体験や博物館や美術館、動物園など

この研修の目的は、英語力の向上はもちろん、現地学校での生徒との交流を通して異文化に触れること。また、日本の文化を紹介することで自国文化への認識を一層深めることにある。

生徒たちは、1家庭に1人ずつホームステイする。ホストファミリーとコミュニケーションをとりながら、自分の意思や考えを、いかに

English Speech Contest

令和2年2月15日(土)大ホール

- ◆1年レシテーション部門
第1位 舘野 愛依 「A Dishwasher」
第2位 川上 晃矢 「Going Home」
第3位 白井 杏織 「How Many Times?」
- ◆2年スピーチ部門
第1位 符 文嘉 「A small Happiness」
第2位 江連 凜 「A Future with Disney」
第3位 澤村 朱羽 「Prom of the Happiness」
- ◆1年スキット部門
第1位 「Five Little Monkeys Jumping on the Bed」
江田直史・立野岡拓史・野島剛生・八木沼宥輝・安住海帆
植原 萌・塩ノ谷まひな・坪山遥音
- ◆2年スキット部門
第1位 「Momo-G」
朝妻優斗・田邊将之・藤田知晃
菊池理央・鈴木莉衣

に正しく伝えることができるか、という課題を自分自身で解決していかねばならない。

中学校3年間の集大成として、無事に研修を成功させてほしい。そして一回りも二回りも大きくなって帰国することを期待している。

学校を訪問(昨年度)

教務日誌抄(中学)

(2月)

- 1日(土) 美化の日
- 全校朝礼
- 4日(火・5日(水) 第2回実力試験 (1・2年)
- 8日(土) 第1回新入生ガイダンス
- 10日(月)〜14日(金) 期末試験(3年)
- 15日(土) イングリッシュ・スピーチコンテスト
- 第3回ホームステイガイダンス
- 20日(木) 卒業判定会議
- 23日(日) 英語検定2次試験
- 24日(月)〜3月9日(月) オーストラリア語学研修 (3年)